

# الجرنال المصري

エジプト通信 Vol.1

## エジプトで“日本文化の日”

皆さんこんにちは。エジプトでJICA海外協力隊として活動している原田 英利子です。  
“Egyptian Japanese School”という公立学校で日本式教育を普及するサポートをしています。

### エジプトで日本式教育

活動先であるEgyptian Japanese School（通称、EJS）はエジプトの公立学校です。エジプトではすべての公立学校に日本式教育を取り入れようという計画が2017年からスタートしており、その指針となるEJSはエジプト全国に51校あります（2023年11月現在）。生徒会活動、委員会活動、学級会、掃除、運動会など、日本の学校ではおなじみの制度を導入しています。



4年生のみんなで Japan Week の集合写真



浴衣と甚平を着て記念撮影



自分たちで作った紙コップけん玉に挑戦

### 文化の日に“Japan Week”を開催

11月3日は文化の日。エジプト全国のエJSでは文化の日に合わせて“Japan Week”と題した日本文化に親しむイベントが行われました。

私の活動先の学校では、浴衣と甚平を着て記念撮影、おにぎり作り、紙コップけん玉、「さくら」の合唱、さくらのオブジェ作りなどを実施。朝礼では、みんなで日本語の簡単なフレーズにも挑戦しました。「おはようございます」や「こんにちは」といった挨拶、授業中に使う「わかりました」「わかりません」、食事の「いただきます」「ごちそうさま」など。子どもたちだけでなく、先生たちも覚えたての日本語に積極的に挑戦してくれました。最終日には、来週はどんな日本語を教えてくれるの？とまだまだ知りたい様子の子もたちも。

## エジプトで感じる日本

日本でエジプトを感じる機会はあまりないかも知れません。

しかし、実はエジプトでは日本を感じる機会がたくさんあります。教育、インフラ、食べ物等の幅広い分野にわたって日本はエジプトとのつながりを持っているのです。

### 🐼教育

カイロ大学では日本語学科が開設されて来年で50年が経ちます。エジプトでは日本語学科が設置されている大学が多くありますが、高等教育機関にこれだけの日本語学科を有している国はとても珍しく、そのため首都圏を中心に日本語を学んでいるという現地の方に声をかけていただくこともあります。また、冒頭でご紹介した通り、エジプトではすべての公立学校で日本式教育を導入することを目指しています。日本の義務教育の姿がエジプトでも当たり前になり、日本とエジプトの子どもが学級会や運動会など共通の話題を持つ日も遠くないかも知れません。

### 🐼インフラ

エジプトではカイロ圏の人口集中による渋滞緩和のために鉄道インフラの整備に力を入れています。そして今、首都カイロの地下鉄では日本製の車両が走っています。2028年に開通が予定されている新路線でも日本の車両がたくさん導入される予定です。

### 🐼食べ物

エジプトの主食はパンとお米です。そして、こちらで食べられてるお米はジャボニカ米を元に品種改良されたもので日本のお米とよく似ています。ちなみにJapan Weekでもおにぎりは大好評。具はツナマヨが大人気でした。ツナマヨおにぎりはエジプトでも人気商品になるポテンシャルを秘めているかも知れません。



桜の花を飾りつけて桜の木をつくりました



将来の夢や平和についての願い事が書かれる中  
「日本に行きたい」という願い事も



おにぎりづくりに挑戦。エジプトでもツナマヨおにぎりは大人気

執筆

原田 英利子

北里大学病院生まれ。生後数か月でエジプトへ引っ越し3歳まで生活。

日本に帰国後は相模原市で育ち、大野北中学校を卒業。

2022年8月から第二の故郷であるエジプトに戻り、JICA 海外協力隊として活動中。